

# 令和4年度 学校マネジメントシート（最終報告）

学校名（ 木本高等学校 全日制 ）

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の良さを伸ばしながら、目標や夢の実現に向けて努力を続ける生徒を育成します。</li> <li>○地域に誇りを持ち社会に役立つ人を育み、「地域に信頼される学校」をめざします。</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の夢や目標をしっかり持ち、その実現に向けて努力を続ける生徒。</li> <li>○学習や部活動に積極的に取り組み、自分の良さを伸ばそうとしている生徒。</li> <li>○地域に誇りや愛着を持ち、世界を舞台に活躍する力を持った生徒。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目指す学校像実現に向け、連携の意識と向上心を持ち、自分の良さを活かして仕事をする教職員。</li> <li>○授業を大切にし、生徒の学力向上と進路希望実現に努め、生徒の良さを引きだそうとする教職員。</li> </ul>

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒：進路実現に向け、学力向上と的確なキャリア教育、進路指導をしてほしい。</li> <li>○保護者：毎日楽しく学んで成長し、進路希望を実現させてほしい。</li> <li>○進学先：目的意識が明確で、意欲的に学ぶ学生がほしい。</li> <li>○就職先：素直で元気が良く、向上心と粘り強さを持った人材がほしい。</li> <li>○地域社会：高校生を力活かし、地域を活性化したい。</li> </ul>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者：子どもを理解し、それを踏まえた教育をしてほしい。安全安心な学校作りを進めてほしい。</li> <li>○中学校：卒業生(本校への入学生)や高校の様子、入試に関する情報を知らせてほしい。</li> <li>○地域社会：地域行事や住民活動、防災の取組等で、高校生に活躍、協力してほしい。</li> <li>○進学先：基礎学力と目的意識を持たせて進学させてほしい。</li> <li>○就職先：社会人として必要なコミュニケーション能力を育成してほしい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者：本校の教育活動に理解、協力をしてほしい。特に、家庭でのしつけと学習環境の確保に努めてほしい。</li> <li>○中学校：基礎学力と目的意識を持たせて進学させてほしい。</li> <li>○地域社会：生徒の成長を温かく見守り、本校の教育活動に協力、支援をしてほしい。</li> <li>○進学先、就職先：体験活動の実施や情報収集等キャリア教育を中心に、本校の教育活動に協力、支援をしてほしい。</li> </ul>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT環境の整備状況を踏まえ、ICT活用や学習方法の工夫により、指導力向上と授業改善に努め、「主体的、対話的で深い学び」を推進してもらいたい。</li> <li>○生徒数減、部活動の縮小が進むなか、アピール力を再認識し、地元新聞、ホームページ等で情報発信に努めてもらいたい。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>入学生のほとんどは熊野市・南牟婁郡管内の生徒で、少子化や地域外の高校への進学等の影響を受け、志願者確保が難しい状況が続いている。</p> <p>地元中学校や地域への情報発信、連携・信頼関係の深化の取組を強化、継続し、特色化・魅力化を更に推進する必要がある。特に、多様な進路希望の実現と部活動へのニーズや期待に応え、結果を出していくことが重要である。</p>	

学校 運営等	<p>多様なニーズに的確に応え、きめ細かくていねいな指導で、生徒一人ひとりが充実した高校生活を送れるようにするとともに、教職員の総勤務時間の縮減にも取り組む必要がある。校外との連携・協力を深め、教職員間の情報や意識の共有を図り、組織的・効果的な教育活動を行うとともに、業務の効率化を図ることが重要である。特に、進学に向けた指導を充実させ、進路希望の実現を図る必要がある。</p>
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒一人ひとりの意欲を高め、学力を伸ばす。</li> <li>2 生徒一人ひとりと向き合い、規範意識を高める。</li> <li>3 生徒一人ひとりに応じて、細やかな進路保障に努める。</li> </ol>
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全教職員が連携して授業改善とキャリア教育をすすめ、生徒の学力向上と進路希望実現に努める。</li> <li>2 教職員が意欲的に充実感を持って仕事に取り組めるよう、連携・協力の態勢を強化し、業務内容の見直しと効率化をすすめ、総勤務時間を縮減する。</li> <li>3 地域等のニーズ把握と連携、PRに努め、教育活動を改善し、地域からの信頼を深める。</li> </ol>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
一人ひとりを大切にしたい安心安全の学校づくり	<p>○生徒一人ひとりの状況を把握し、教員間で共有する。</p> <p>【活動指標】学級担任による個人面談等を実施する。</p> <p>【成果指標】年間3回以上。</p> <p>【活動指標】生徒個々の状況を学校全体で共有する会議を開催する。</p> <p>【成果指標】年間、定期的に5回以上、臨時に必要回数。</p> <p>○生徒の「命を大切にしたい心」を育む。</p> <p>【活動指標】命について、生徒が考える機会を多く設ける。</p> <p>【成果指標】講話、講演会等を年間3回以上実施。</p>	<p>【面談】</p> <p>《1学年》 面談 2回</p> <p>《2学年》 面談については、4月と7月の三者懇談を実施した。その他必要な生徒にはその都度面談を行ってきた。</p> <p>《3学年》 面談については全員に対して1学期に2回、2学期に1回実施し、その他個別に必要な生徒にはその都度実施した。</p> <p>《保健部》 ・包括的教育講演会(思春期講話)7月11日 ・スポーツ庁の動画「学校でのスポーツ事故を防ぐために」の視聴を薦め、応急処置の知識と技術の向上に努めた。7月(職員対象)(感染症予防のため今年度の救急法は実施せず)</p>	

	<p>○いじめを許さない学校風土を定着させる。</p> <p>【活動指標】いじめについての生徒アンケートを実施し、その結果を分析・確認、教員全体で共有する。</p> <p>【成果指標】年間3回以上。</p> <p>○学校全体で人権意識を高める。</p> <p>【活動指標】人権 LHR を実施する。</p> <p>【成果指標】年間3回以上。</p> <p>○防災に対する意識を高め、災害時の対応力を高める。</p> <p>【活動指標】防災訓練、防災に関する講話等を実施する。</p> <p>【成果指標】年間3回以上。</p>	<p>・保健講話(思春期講話)</p> <p>1学年 11月10日</p> <p>2学年 11月9日</p> <p>3学年 11月9日</p> <p>《全学年》</p> <p>6月・9月・2月に「いじめアンケート」を実施</p> <p>【人権 LHR】</p> <p>《1学年》</p> <p>1 学期「楽しいコミュニケーションを考える」</p> <p>2 学期「共生社会においてどのように他者と関わり、社会に参画すべきか考える」</p> <p>10月31日(公開授業)</p> <p>《2 学年》</p> <p>平和を考えることは人権を考えることだと捉え、学習を行った。</p> <p>1 学期: 平和学習を過去に学習した内容を振り返りながら、自分の平和学習に対する考え方を整理した。</p> <p>2 学期: 修学旅行で講演を聴いた後どこへ行って何を学習するかを事前学習し、広島で自主的に体験することができた。</p> <p>《3 学年》</p> <p>人権LHRとして1 学期は「結婚差別について」を行った。2 学期は「労働者の権利を知ろう」を行った。</p> <p>《全学年》</p> <p>人権フェスティバル 12月16日(熊野市民会館)</p> <p>【防災】</p> <p>4月に地震・津波避難訓練を実施。12月に地震・津波および土砂災害避難訓練(垂直避難)、火災避</p>
--	---	--

		<p>難訓練を実施した。</p> <p>《1学年》</p> <p>1 学期に防災プロジェクトを実施。</p> <p>通学路の危険箇所と避難場所を実際に確認し、写真に撮り、発表しクラスで共有した。</p> <p>発表の場では講師を招き、この地域の地学的な観点から防災について講演を聞いた。</p>	
学習指導	<p>○生徒一人ひとりの意欲を高め、生徒の学力を伸ばす。</p> <p>(1)授業を大切にす姿勢を学校全体で示す。</p> <p>【活動指標】チャイムと同時に授業を開始する。教員はチャイム前に教室に到着する。</p> <p>【成果指標】チャイムと同時の授業開始が生徒調査で100%。</p> <p>(2)進路希望実現に向けて、3年生対象の補習授業を積極的に展開する。</p> <p>【活動指標】授業日、長期休業中に補習授業を行う。</p> <p>【成果指標】授業日と長期休業中に5教科の補習授業を行う。</p> <p>(3)自主的学習の意欲を高め、個々の状況に合った個別学習を支援する。</p> <p>【活動指標】生徒が自分に適した学習について考える機会を多くつくとともに、それに沿った学習を定着させる。</p> <p>【成果指標】Webを利用した個別学習の1人あたり平均受講講座数各学期5回（年間15回）。</p> <p>(4)「新学習指導要領」「大学入学共通テスト」に対応した学習指導の改善を進める。</p> <p>【成果指標】学校全体での共通した取組2件以上。</p>	<p>6月に学習アンケートを実施。生徒の授業充実度は72%、授業満足度は68%、チャイムと同時に授業開始は96%であった。</p> <p>11月に2回目の学習アンケートを実施。生徒の授業充実度は69%、授業満足度は61%、チャイムと同時に授業開始は86%であった。</p> <p>○3年生対象に5教科で9講座の補講を設け、4月25日より開始した。</p> <p>○3年生対象に5教科で9講座の補講を設け、7月25日～8月6日まで進学補講を行った。</p> <p>○夏休み進学補講で、津高校が開催するオンラインによる進学補講(数学の共通テスト対策)に参加した。</p> <p>○1 学年対象で学習合宿を実施予定。(3月)</p>	
生徒指導	<p>○生徒一人ひとりと向き合い、生徒の規範意識を高める。</p> <p>(1)ルールと挨拶を大切にす姿勢を学校全体で示す。</p> <p>【活動指標】登校指導を原則全授業日に学校全体で分担して行い、服装頭髪の確認と挨拶をする。</p> <p>【成果指標】規定とおりの頭髪服装で登校し、挨拶をする生徒が90%超。</p>	<p>生徒指導部、教員の登校指導に加え、風紀委員の挨拶運動の実施。</p>	

	<p>(2)全教員が一致協力して指導の徹底を図る。</p> <p>【活動指標】イエローカードの活用等で頭髪服装、携帯電話等の指導を徹底する。</p> <p>【成果指標】規範意識が高まったと実感する生徒が95%超。</p>	<p>2月に生徒指導部アンケートを実施予定。</p>	
進路指導	<p>○生徒一人ひとりに応じて、きめ細やかな進路保障に努める。</p> <p>(1)生徒の進路意識を高め、早期の進路目標設定とその実現に向けた指導を強化し、卒業時の進学先に対する満足度を高める。</p> <p>【成果指標】進学決定者の進学先に対する満足度90%以上。就職:卒業時の内定100%。</p> <p>(2)生徒一人ひとりの状況を把握し、教員間で共有する。</p> <p>【活動指標】1, 2年生対象の学力・学習力に係わる研修会を開催する。</p> <p>3年生対象の個別検討会を開催する。</p> <p>【成果指標】年間2回以上。</p>	<p>○1学期に2回、進路別説明会(3年生対象)を行った。</p> <p>○1月末時点での進路決定者に対する満足度は、96%であった。</p> <p>○就職希望者の内定は、100%であった。</p> <p>○1, 2年生対象の学力・学習力に係わる研修会を、1年生は1学期、3学期にそれぞれ1度、2年生は1学期に1度実施した。</p> <p>○3年生対象の個別検討会については、時期もさまざまなので、担任と相談し個別に対象生徒の相談にのるスタイルで行った。来年度は、7月末三者懇談会前、11月模試後に開催してはどうかと考えている。</p>	

### 改善課題

- 1人ひとりを大切にしたい安心安全の学校づくりについては、面談やアンケートによる生徒状況や情報は、教員間での共有は概ね達成できた。またその中での課題については丁寧に対応できたが、さらに生徒指導面も含め、継続して対応していく必要がある。
- 防災については、従来の講演・訓練に加え、学年による防災プロジェクトを実施することにより、意識を高めることができた。さらに防災について地域との学習機会も持つことが大切になってくる。
- 学習指導については、新学習指導要領への対応やICT活用の環境整備は概ね達成できた。さらに進路実現に向けて、日々の授業の充実・自主学習の意欲を高める活動が必要となってくる。

### (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員の 資質向上	<p>○教職員の指導力、課題への意識を高める。</p> <p>(1)他者からの視点を活かして、授業力を高める。</p> <p>【活動指標】授業を公開し、参観者の感想を全教職員で共有する。</p> <p>【成果指標】授業公開期間を年2回設定。</p> <p>【活動指標】生徒対象の学習アンケートを年度前半と後半に実施する。</p> <p>【成果指標】授業満足度が前半より後半が5%以上向上。</p>	<p>授業公開を6月・11月に実施</p>	

	<p>(2)進路指導力を高める。  <b>【活動指標】</b>進学指導の校内研修、勉強会を開催する。  <b>【成果指標】</b>年2回以上。</p> <p>(3)「命を大切にすることを育む教育」の指導力と意識を高める。  <b>【活動指標】</b>“命を大切にすることを育む教育”の校内研修を開催する。  <b>【成果指標】</b>年1回以上。</p> <p>(4)法令遵守、信頼向上の意識を高める。  <b>【活動指標】</b>生徒への体罰・セクハラに関するアンケートを実施するとともに、法令遵守の校内研修を開催する。  <b>【成果指標】</b>アンケート、校内研修ともに、年3回以上。  <b>【活動指標】</b>校外の事例を全教職員で共有する。  <b>【成果指標】</b>年10件以上。</p>	<p>・アレルギーなどの緊急性の判断と対応について研修会。4月20日(職員対象)</p> <p>コンプライアンス研修(7月・8月・12月)を実施し、意識を高めた。</p> <p>生徒アンケート(各学期末実施)</p>	◎
地域等との連携強化	<p>○地域のニーズ把握と信頼関係深化に努める。  <b>【活動指標】</b>本校教職員が地元小中学校教員・三重大学東紀州サテライト教員と直接情報交換、意見交流する機会を多くつくる。  <b>【成果指標】</b>本校教職員と小中学校教員・三重大学東紀州サテライト教員が直接交流する機会年間のべ20回以上。  <b>【活動指標】</b>本校生徒の様子を直接見てもらう機会を多くつくる。  <b>【成果指標】</b>生徒の活動の様子を公開3回以上。</p>	<p>公開人権LHRに小・中の教員13名参加(10月)</p> <p>総合学科2・3年生が木本小学校の5・6年と英語と体育で交流を行った。</p> <p>授業・体育祭・文化祭を保護者公開で実施した。</p>	
働きやすい職場づくり	<p>○総勤務時間を縮減する。</p> <p>(1) 総勤務時間縮減の意識を高める。  <b>【活動指標】</b>定時退校日を月に1日設定する。  <b>【成果指標】</b>定時退校日に定時退校した職員の割合80%以上。  <b>【活動指標】</b>会議を効率化し時間を短縮する。  <b>【成果指標】</b>60分以内に終了する放課後の会議の割合80%</p> <p>(2)超過勤務を縮減する。  <b>【活動指標】</b>業務を精選・効率化・分散化する。  <b>【成果指標】</b>時間外労働時間月間45hおよび年間360hを超える職員0人。</p> <p>(3)休暇取得を増やす。  <b>【活動指標】</b>夏季休暇を完全取得する。  <b>【成果指標】</b>1人あたりの休暇取得1日/年増。</p> <p>(4)他の教育活動とバランスのとれた計画的な部活動を行う。  <b>【活動指標】</b>各部毎に、休養日を週に1日設定する。  <b>【成果指標】</b>休養日を月4日以上実施した部の割合100%。</p> <p>○教職員間の連携意識を向上する。  <b>【活動指標】</b>各会議に(議事とは別に)情報交換、現況報告の時間を確保する。  <b>【成果指標】</b>職員会議を除く全会議に確保し、全員が発言。</p>	<p>1) 60分以内に終了する会議の割合 76.8%</p> <p>2) 月刊45hを超える職員 のべ93人 (4/1~1/31まで) 前年同日比 29人増</p> <p>3) 夏季休暇取得 4.5日/人</p> <p>休暇取得 15.9日/人 (4/1~1/31まで) 前年同日比 0.7日減</p>	※

学校の将来像の具体化	<p>○学校を取り巻く状況の変化に対応し、学校の具体的な将来像を定め、準備を開始する。</p> <p><b>【活動指標】</b>将来像を協議する場を設け、教職員の共通理解に努める。</p> <p><b>【成果指標】</b>将来像を協議する会議5回以上。</p>	新教育課程の研修、地域活性化の情報共有(校内委員会・紀南高との懇談)等を行った。	※
------------	--	--	---

### 改善課題

- 職員の資質向上については、教科内外でICT活用や指導方法などの情報を共有し、授業力の向上に繋がった。また、法令遵守・信頼向上に向けて日頃からの声掛けや研修を行い、意識を高めることができたが、今後も継続が必然となってくる。また、心身の充実を図るために総勤務時間や休暇についての継続的な運営が課題となる。
- 地域等との連携については、昨年度より外部との交流規制が部分的に緩和され、少しずつ連携を図ることができた。さらに連携の内容や範囲の見直しが課題となる。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>○学習面では、ICT活用や学習活動の工夫により、一人ひとりにあったきめ細かい教育活動を行い、希望進路の実現に努めてほしい。また特別活動等において、適切な自己判断や主体的な活動ができる力を身につけるような取り組みを行ってほしい。</p> <p>○本校の活性化にも繋がる小中学校や地域住民との連携について、多岐にわたる活動を深め、情報発信にも努めてほしい。</p>
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業計画や指導力の向上を図り、主体的な学習活動となるよう教員間で生徒状況を把握・共有し、それぞれの進路実現に取り組む。学校行事等の様々な場面で、達成感や自己肯定感が高まるような活動に取り組む。</p>
学校運営についての改善策	<p>授業力や進路指導力、生徒指導に繋がる信頼向上の意識を高め、教職員の資質の向上に取り組む。そのために教員間での情報共有や連携を深め、働きやすい職場づくりに取り組む。中学生や地域の方々に、活動内容や実績、連携を含めた情報の発信に取り組む。</p>